

ナシ果樹園作業者における花粉症に関する疫学的・アレルギー学的研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 吉田, 雅一, Yoshida, Masakazu メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/14792

学位授与番号	医博甲第 945 号
学位授与年月日	平成 2 年 3 月 31 日
氏 名	吉 田 雅 一
学位論文題目	ナシ果樹園作業における花粉症に関する疫学的・アレルギー学的研究

論文審査委員	主 査	岡 田 晃
	副 査	橋 本 和 夫
		谷 口 昂

内容の要旨および審査の結果の要旨

ナシ栽培従事者に職業性花粉症発生の可能性があるか否かを解明するために、本研究では、免疫・アレルギー学的手法を用いてその原因花粉を同定し、さらに 9 年間の疫学的追跡調査を実施し、有病率および発生率などを観察することによって、ナシ果樹園花粉症の成立について検討した。対象は、富山県 K 地区の専門ナシ栽培従事者 84 名であり、1980 年の疫学調査に基づき、1989 年に追跡調査を質問紙による自覚症状調査および直接面接調査法によって実施した。空中花粉と呼吸器症状に関しては、ナシ果樹園の中心地に Durham の標準花粉採取台を設置し、空中花粉を補集同定した。花粉症例では、鼻アレルギー日誌による自覚症状調査を行い、また、花粉飛散前後における最大呼気速度等を測定した。免疫・アレルギー学的検討として、ナシ花粉およびスズメノカタビラ花粉を採取し、RAST 法によって、花粉特異的 IgE 抗体を測定した。さらに、ナシ花粉抗原の特異性について検討するため、RAST 抑制試験、Ouchterlony 法を実施した。

得られた成績は以下の如く要約される。

- 1) 花粉症の有病率は、1980 年には 10.7%、1989 年には 19.0% であった。84 名について追跡調査を行なったところ鼻症状は 16~25%、喘鳴が 9.5%、呼吸困難発作が 1.2% に認められた。鼻症状は季節的に発生すること、4 月~6 月に多発することが追跡調査においても確認された。また、花粉症の 9 年間の発生率は 9.5% であった。
- 2) 果樹園花粉症の典型的な症状は、人工授粉期における鼻・眼症状等であった。喘鳴症状を合併していない症例において、花粉作業前後で呼吸機能検査を実施したところ、人工授粉作業開始直後から、 \dot{V}_{25} の低下が認められ、下気道に閉塞性変化の生じることが示された。
- 3) ナシ果樹園作業者の花粉症患者血清中にはじめて RAST 法により花粉特異的 IgE 抗体を証明することができた。また、花粉症患者中にナシ特異的 IgE 抗体が確認され、スズメノカタビラ花粉特異抗体は 9 名に認められた。
- 4) RAST 抑制試験・Ouchterlony 法によってナシ花粉、スズメノカタビラ花粉は独立したアレルゲンであることが確認された。

以上本研究は、ナシ果樹園作業者の花粉症の原因として、ナシ花粉、スズメノカタビラ花粉が重要で、一定期間の暴露後、感受性を示す作業者に花粉症を惹起させることを疫学的に明らかにしたものであり、労働衛生学の領域に有用な知見を提供する労作と評価される。